

薬剤耐性菌により世界で毎年 495 万人が死亡

薬剤耐性は世界中で人々の健康を脅かす主要なものとなっている。これまでの薬剤耐性に関する研究は特定の地域に限って評価しており、広範囲に包括的に検討したものではなかった。本研究では、204 の国と地域における、23 種の病原体および 88 件の病原体と薬剤の組み合わせについて、薬剤耐性菌による死亡と障害調整生存年数を調査した。

データを文献のシステマティックレビューや病院の調査システムなどから収集し、4 億 7,100 万件の患者記録を対象に解析した。結果、2019 年の世界全体での細菌の薬剤耐性に関連する死亡は 495 万件であり、薬剤耐性菌が直接起因する死亡は 127 万件と推算された。地域別ではサハラ以南のアフリカ西部で薬剤耐性菌による死亡割合が最も高く、薬剤耐性菌による死亡割合は 10 万人あたり 27.3 件であった。同割合が最も低かったのはオーストラリアで、10 万人あたり 6.5 件であった。また、最も負担の大きい感染性症候群は下気道感染症で、薬剤耐性に関連する死亡が 150 万件以上あった。薬剤耐性関連死亡の原因となった病原体の種類で最も多かったのは大腸菌で、次いで黄色ブドウ球菌、肺炎桿菌と続いた。病原体と薬剤の組み合わせについては、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）が死亡数、障害調整生存年数ともに最も多かった。

以上のように、薬剤耐性菌感染症は世界の主要な死因であり、医療資源が不十分な地域では大きな負担となっている。薬剤耐性菌感染症の病原菌と薬剤の組み合わせを理解することは地域ごとの施策を決定する際に重要となるが、低所得国ではデータが不足している。この健康上の脅威について理解を深めるにはデータ収集システムを拡充する必要がある。

出典：Lancet.2022 Jan 18; S0140-6736(21)02724-0.